DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.4

大東文化歴史資料館だより

第４号　2008. 5. 31

歴史はひとを賢くする

大東文化歴史資料館館長　**山﨑　俊次**

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）は、大東文化学園、大東文化大学、大東文化大学第一高等学校、大東文化大学附属青桐幼稚園及び大東医学技術専門学校の歴史に関する調査・研究並びにそれらの校史に係る資料の収集、整理・保存、公開を行うことによって学園と関係校の発展に寄与する目的で 2006（平成 18）年４月に正式に設置されました。この歴史資料館に対する期待は大きく、1923 年創立の大東文化学院以来の膨大な量の資料収集、整理・保存、そして展示という緻密で忍耐力の要る重要な事業がこのように正式に発足したことを心から喜んでいます。また開設に関わってご尽力された関係各位のご努力に衷心より敬服申し上げます。

かつて、フランシス・ベイコンは『随筆集』「学問について」で「歴史はひとを賢くする」と述べて、人間生活に意味のあるもの、学問の有用性を説いています。この大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）をとおして、「歴史と対話」し、85 周年を迎えた本学の襞の一枚一枚をはがして行く作業の重要性を再認識し、健全な歴史認識を持つことによって 100 周年に向けた本学が取るべき基本姿勢が確立され、豊かな大東 100 周年を迎えるための将来の展望が開けるものと確信しています。

開設以前、2005 年 11 月にプレ展示「花咲く学生文化」を開催したあと、開設後は 2006 年４月に第１回企画展「学びの 80 年」、2006 年９月に第２回企画展「雑誌大東文化とその時代」、2007 年４月に第３回企画展「シンボル誕生 ～校歌・学生歌・校章～」、そして 2007 年 10 月に第４回企画展「大東医学技術専門学校のあゆみ ～臨床検査科の 45 年～」を開催してきました。そして現在は、2008 年４月より第５回企画展「大東文化学院創設をめぐる人々（Ⅰ）～井上哲次郎・新資料の紹介～」を開催し、数多くの資料収集・保存につとめながら、その成果を順次様々な方法で公開していくことで歴史資料館としてその役目を果たしています。

今後ますます、この大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）の果たす役割は大きくなり、その重要性が増していくものと確信しております。学園並びに設置校の皆様の更なるご支援、ご協力を賜りますように改めてお願いする次第であります。

第２回百年史研究会報告

村井 益男 氏

第２回百年史編纂事前研究会は、村井益男氏（元日本大学百年史監修者・同編纂委員・同専門部会長）を講師にお招きし、2008 年２月 26 日（火）、板橋校舎２号館にて行われました。

村井先生は日本大学の史学科（旧制）卒業後、東京大学史料編纂所においておよそ 30 年にわたって研究実績を積まれ、昭和 57 年より母校である日本大学法学部教授に着任され定年退職されるまで史学教育に力を注がれて来ました。一方で、日大へ戻られて６年目に年史編纂委員を委嘱され、以後 20 年あまりにわたり日大百年史の完成に尽力されて来られました。現在も日本大学資料館設置準備室において、資料収集やアーカイブ活動に関する顧問的役割を果たしておられます。

村井先生へは事前に、年史編纂に必要な基本的事項と編纂過程で生じた具体的な問題点とについて支障のない範囲で事例を交えてお話いただければとお願いしていました。それを受ける形で、（Ⅰ）資料収集・全体構成・編纂活動、（Ⅱ）「資料編」掲載資料の精査、（Ⅲ）大学史の性格とは、というおおよそ３つの流れに沿ってお話いただきました。

（Ⅰ）については、①全学体制で組織された百年史編纂委員会による第１回会議において明らかになった多くの課題について、例えば、既存の『90 年史』に 10 年分を付け足すだけで編纂を行うことができるとの意識が内部にあったことや、編纂室に学内外の史資料が収集されていないために原資料の確認が行えなかったことなど具体的事例を挙げ、②それらの課題や問題点をふまえた上で、すでに決定されていた全５巻構成は変更できないまでも執筆者及び編纂方針自体を見直すこと、掲載資料や論稿の典拠（根拠）を明らかにしていくこと、学外資料を収集しつつ学内資料の収集については全学体制による協力を求めたこと、などについて説明いただきました。

（Ⅱ）次に、①刊行の理想順序は「資料編」→「通史編」→「年表・索引」であり、遠回りに見えても「資料編」によって基礎を固めておくことが良い結果に繋がること、②資料収集のときに周辺事実の調査や資料整理、目録作成、索引まで同時進行できれば理想的であること、③基本年表は必ず先に作成し、大学史に関する基礎知識の共有化を図ること、④「資料集」の刊行はその後の「通史編」の原資料収録の目安にもなること、⑤執筆者同士の合意や意思・知識の共有のために定期的な研究会を設け意見しあうことも必要であったこと、など具体的な編纂過程の説明をしていただきました。

（Ⅲ）最後に「大学史」の持つ性格について、①アーカイブスは大学にとって広報的役割も求められること、②私学にとっての歴史とは「教訓」であり「鏡」であるため歪んだ歴史認識では役に立たないこと、③「評価」は後世に譲るとしても歴史的事実（資料）は確実に整理保存されなければならないこと、④歴史の中から何が現在に生かされなければならないかを示すことが必要であり、制度史だけでなく学術史・学問史として向き合っていくこと、などについて言及されました。

以上、具体的な事例をあげての説明かつ編纂過程で生じた課題・問題点も率直にお話いただき、その後は出席者より多くの質問が出され活発な議論が行われました。

（大東文化歴史資料館・浅沼　薫奈）

第２回百年史編纂事前研究会に参加して

― 課題と対策 ―

今回の研究会では、日本大学の大学史編纂委員会で監修をつとめられた村井益男先生をお迎えし、『日本大学百年史』編纂の経緯についてお話を伺いました。

日本大学においては、すでに『50 年史』、『70 年略史』、『90 年史』と順次大学史を刊行してきた実績があります。それ故、学内では、これらの蓄積を踏まえ、そのまま百年史刊行に移行できるという雰囲気が当初から強かったようです。ところが、百年史編纂の責任者となった村井先生は、‘『90 年史』プラス 10 年の記述’で済ますような姿勢をとらず、従来の大学史に綴られた記事の根拠を創立者の時点から明らかにすることを第一義とし、学内資料はもとより公私立の資料館・文書館に直接当たることから取り組み始めたそうです。そのため、結果としては、第一回の編纂委員会の設置から『日本大学百年史』全５巻の完成までにほぼ 20 年の歳月を費やしたということです。

村井先生は、東京大学史料編纂所における長い勤務経験をも踏まえて、これから大学史の編纂に取り組む場合、大学史の性格づけや学術性を高めるためにも、資料による客観性の裏づけが絶対に不可欠であると強調されました。その際、資料調査にあたっては、資料収集と同時にカードで整理しながら目録・索引・年表を作成しておくことが大事であるなど、具体的な事例を指摘していただき、大変意義深い研究会となりました。

本学においても、今まで『50 年史』、『70 年史』と刊行されておりますが、百年史編纂に向けては、‘プラス 30 年の記述’であってはならないことを痛切に感じとることができました。これを踏まえるとき、本歴史資料館の直面する課題は、限られた人員・予算の中で、いかにして資料の収集、調査、研究を継続していくかということでありましょう。そのためにも、本資料館では、百年史編纂委員会の立ち上げにむけて専門部会のようなものを設け、中長期の基本方針を定めるとともに、学内の教職員に広く呼びかけて研究班活動を実質的にスタートさせるときではないかと思います。

（大東文化歴史資料館運営委員・東洋研究所教授　兵頭　徹）

大東アーカイブス第５回企画展

大東文化学院創設をめぐる人々(1)

～井上哲次郎・新資料の紹介～

展示期間：平成20年4月1日（火）～平成20年9月26日（金）
（開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00）
展示場所：大東文化歴史資料館 展示室 （板橋校舎２号館１階）

（自宅書斎での井上哲次郎・
大東文化学院総長在任中の1925年頃）

大東文化歴史資料館では、本学創設期の指導者群像を確かなものとし明らかにしていくために、その関係資料を収集・整理しつつ、順次公開することを予定しています。

現在、展示室ではその第１弾として、当資料館が所蔵する大東文化学院第２代総長・井上哲次郎関係資料の一部を公開しています。

哲次郎が大木遠吉（大東文化協会初代会頭）、牧野謙次郎（大東文化学院教授）、土屋久泰（第14代総長・新制大学初代学長）等学院関係者と交わした書簡類をはじめとして、在任中に起きた事件に関する新聞記事、また自筆原稿や講演筆記録、雑誌『大東文化』に掲載された哲次郎の論稿数点などを、多くの写真とあわせて展示しています。

井上 哲次郎 〔1855(安政2)年～1944(昭和19)年〕

（現在の井上児童遊園）

明治・大正期に活躍した哲学者。号は巽軒。筑前国（福岡県）大宰府出身。東京大学哲学科卒業。1882（明治15）年に外山正一・矢田部良吉らと「新体詩抄」を刊行し、世間に名を知らしめた。東京大学助教授在任中の1884年よりドイツに留学し、東西哲学を追及する。この時、ドイツ留学中の森鷗外とも知遇の機会を得たという。1890年６月の帰国と同時に日本人としてはじめて東京帝国大学文科大学哲学科教授に就任した。1923（大正12）年退官。

教育勅語発布の翌年1891年９月に教育勅語の注釈書『勅語衍義』を著し、その哲学的基礎付けをあたえた。また「教育と宗教との衝突」を雑誌に連載し、キリスト教を反国体的宗教として排撃し、大きな反響をよぶ。その後、一貫して天皇制国家における国民道徳のあり方を論じた。

1922（大正13）年10月より大東文化学院教授・同教授会長に就任し、1925年２月より1926年10月まで大東文化学院第２代総長をつとめた。雑誌『大東文化』にも創刊号（大正13年３月）より数回にわたり論説を寄稿するなどしている。哲次郎は総長在任中、大東文化協会とともに「学院改革案」を発案するが、それが発端となり「学院紛擾」を引き起こすこととなった。帝大型の教授方針である「改革案」を推進する官学派教授陣に対し、早稲田系学者を中心とした私学派教授陣が反発し、罷免者や辞職者が多発したのである。争いは学生間にも波及し退学者が続出するという混乱状態を招くこととなり、騒動が鎮静化するのは哲次郎辞任後の1928(昭和３)年頃であった。また、同時期に哲次郎の著作『我国体と国民道徳』における三種の神器の解釈を「不敬」とする非難が起こったことから、問題拡大を避けるために哲次郎は大東文化学院総長を含む一切の公職を辞任することとなった。

哲次郎は1892（明治25）年より1944（昭和19）年12月に亡くなるまで、小石川区表町（現,文京区小石川３丁目）に住んだ。住居は昭和20年に戦火で消失したが、二つの書庫（土蔵）は今も残されている。井上哲次郎邸跡は昭和27年より東京都文化指定史跡の指定がなされ、「文京区立井上児童遊園」として現在も地域の人々に親しまれている。

（大東文化歴史資料館・浅沼　薫奈）

＊大東アーカイブスの動き＊

～井上哲次郎関係資料を一括入手しました～

大東文化歴史資料館では昨年度、約350点の井上哲次郎（大東文化学院第２代総長）関係資料を入手しました。

井上哲次郎は1924（大正13）年10月に大東文化学院教授・同教授会長に就任し、1925年２月～1926年10月まで大東文化学院第２代総長をつとめた人物です。

今回入手した資料は、哲次郎が九州から開成学校入学のため上京した時（明治８年）のものから大東文化学院在職中（大正15年頃）、最晩年（昭和10年代）に撮られたものまでの50点あまりの貴重な写真をはじめとして、大学関係者・親族・友人らと生涯にわたって交わした大量の書簡類、直筆原稿、講演筆記録、卒業証書、海外渡航関係書類、友人縁者に配ったと見られる自作の漢詩が書かれた扇子など、多岐にわたる内容です。

現在、第５回企画展としてその一部を公開していますが、今後整理・研究を進め、順次公開していく予定です。

「現代の大学」の開講

2006年度より、自校史教育の一貫として「現代の大学」（総合教育科目「自分をみつめる科目群」、東松山校舎・土曜２限）を開講しています。この講義は、大東文化大学の歴史及び日本高等教育史を学ぶことを目的とし、(1)大学と大学史、(2)社会と大学、(3)学生生活と大学、と大きく３つの柱に沿って構成されています。

自分のいる大東文化大学とはどのような歴史・個性・特徴を持つ大学なのか、大学で学ぶとはどういうことなのか、日本の大学の基本的な歴史や現在の大学が抱えている課題などを広く理解することによって、数ある大学の中で大東文化大学へ進学した学生自身の自己確認・自己確立の一助となることを目的の一つとしています。

昨年度は、「私の学んだ大東文化大学」と題して大東文化学院を卒業された大先輩にあたる方々による講演や、和田守学長による「大東文化大学の現状と課題」と題する特別講義を取り入れながら授業を進めました。

受講した学生からは、「大東文化に誇りを持つことができた」「こんなに著名な人が関わっていた歴史を持つ大学と知ることができてよかった」などの感想が寄せられました。また、この授業を進めていくにあたり大東アーカイブスのもつ情報も有効に活用されています。

（大東文化歴史資料館・浅沼　薫奈）

【大東アーカイブス活動記録】（2007年10月～2008年3月）

10. 1　第４回企画展「大東医学技術専門学校のあゆみ ～臨床検査科の45年～」開催
10. 11　全国大学史資料協議会全国大会参加（於：成蹊大学、～13日）
11. 10　合同部会会議／予算編成会議
11. 30　ニューズレターvol. ３刊行
12. 10　合同部会会議／運営委員会会議
12. 13　全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会議、研究会参加（於：明治学院大学）
1. 24　全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会義、研究会参加（於：武蔵野美術大学）
1. 28　九州工業大学史料室を調査訪問
1. 29　九州大学大学文書館を調査訪問
2. 26　合同部会会議
第２回百年史編纂事前研究会（講師：元日本大学教授、村井益男氏）
3. 6　全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会議参加（於：明治大学）
運営委員会会議
3. 26　第４回企画展公開終了。次回入れ替え準備のため展示室閉室。
3. 27　「年表パネル」展示室へ搬入。

～大東文化学園に関する史資料を集めています～

・卒業アルバム　・写真や映像　・各種機関誌や新聞　・講義ノート
・記念品（卒入学時のものや部活動サークル関連のものなど）
・学生時代の制服制帽　・学校行事や学生生活に関する資料　等

大東文化歴史資料館では、上記のもののほか、各種学園関係資料を探しています。

本学を卒業された方、かつて教鞭をとっていらした先生方や退職された職員の方々、そのほか関係者の皆様のご協力を広くお願いしています。ご提供いただけるものや情報がございましたら、大東文化歴史資料館へ是非ご連絡ください。

大東文化歴史資料館だより

第４号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.4

発　　行：2008年５月31日
編集発行：大東文化歴史資料館
〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10
TEL 03(5399)7646 / FAX 03(5399)7647
URL：http://www2.daito.ac.jp/jp